

篠山再生計画（行革編）の進捗状況等についての篠山再生計画推進委員会委員の意見・提案【平成29年度】

取組項目等	意見・提案	市の取組方針	市の取組結果	担当課
	平成29年10月委員会	平成29年度まとめ	平成30年10月委員会報告	
継続した財政健全化への取り組みと平成30年度の予算編成について	財政健全化への歩みは確かだが、今後一般財源ベースで扶助費や繰出金などが増加する見込みであり、また、実質公債費比率や将来負担比率は全国水準より依然として高い。したがって、収支バランスが取れる時期が近づいたといえども、なお気を引き締めて財政健全化へ取り組む必要がある。そのための姿勢を示す意味で平成30年度の予算編成は非常に重要となるので、全庁をあげて事務事業の点検と見直しに取り組んでいただきたい。	篠山再生計画の着実な実行により引き続き財政健全化に取り組む。 また、平成30年度当初予算編成にあたって、歳入は市税収入の増加は見込めず、一方で歳出は社会保障費の増加などの対応により、市の財政が依然厳しくなるとしたうえで、事業の点検や見直しを行うことで経常経費の削減に努め、財政調整基金の取崩しについては前年度より2億4,000万円減の9億3,000万円で編成した。	篠山再生計画の着実な実行により引き続き財政健全化に取り組んでいる。 また、左記の取組方針に記載のとおり、平成30年度当初予算を編成した。予算執行についても迅速かつ計画的な執行を行い、競争原理の導入や経費節減に努めながら行っている。	行政経営課
公共施設等総合管理計画の推進について	公共施設等の管理に関して公共施設等総合管理計画で市全体としての目標や方針が示されたが、各公共施設等の具体的な計画の策定が必要と考える。	公共施設の総合的かつ計画的な管理を推進するための指針として、篠山市公共施設等総合管理計画を策定した。平成30年度から計画に基づき、施設を管理するそれぞれの部署において、施設の長寿命化、改修にかかる費用の平準化等を図るため、施設の個別計画の策定に取り組む。	平成32年度までに、施設を管理するそれぞれの部署において、施設の長寿命化、改修にかかる費用の平準化等を図るため、施設の個別計画の策定に取り組む。 そのための指針として、「篠山市公共施設長寿命化（予防保全）指針」を整備した。また、施設の安全性、機能性を適正に保ち、施設の劣化を正確に把握し、それに対応して施設を適正に維持管理していくため、「施設点検マニュアル」や「施設点検チェックシート」を整備・拡充した。	管財契約課
新たな課題に対する今後の備えについて	昨年度に当委員会から、今後市が直面する公共施設等の老朽化対策など新たな課題に対応するための計画策定を提案したが、今回、公共施設等総合管理計画で示された今後の更新費用は平成28年度の普通建設事業費からみて非常に多額である。 したがって、更新に伴う費用が集中しないよう、可能な限りの事業実施の前倒しや基金の積み立てなどで更新費用の平準化を図り、この先に来るであろう大変な時期に備えていただきたい。	公共施設等総合管理計画による将来の更新費用の試算は、現在の公共施設等の量をそのまま保有した場合を条件にしており、また、特定財源を含んだ事業費であるため、一般財源はその一部である。 しかし、公共施設等の老朽化対策は課題であり、収支バランスを取ることを目標としながら、備えとして公共施設整備基金の積立に努める。	まず、平成31年度に収支バランスを取ることを目標として、財政調整基金への積立てを行っている。新たな課題である公共施設等の老朽化対策については、更新費用の平準化に努め、収支バランスが取れた後は、更新費用が集中する時期への備えとして財源確保に努める。	行政経営課
まちづくりを行いながらの財政健全化について	財政健全化とあわせて魅力あるまちづくりも重要であり、昨今、定住促進、子育て支援、教育、景観ほか各分野、そして日本遺産認定など、まちづくりの取り組み成果が現れているので、今後も力を入れていただきたい。 そのため、事業の選択と集中の考えをもったまちづくりとし、財政健全化に向け取り組んでいただきたい。	総合計画に掲げる基本構想実現のための事業を中心に施策評価による進行管理を行う。また、財政健全化を図りつつ、限られた財源を有効に活用するため、事業の優先性や必要性とその効果を十分に検討し、市の魅力づくりに取り組む。	財政健全化に向けて継続して取り組みながら、総合計画や市政方針に基づき、住みよさと魅力あるまちづくりを進める取り組みに力を入れている。	行政経営課